



公益財団法人かめのり財団  
第14回かめのり賞 活動報告書

令和2(2020)年度 第14回かめのり賞 受賞者(敬称略)

【かめのり大賞 草の根部門】

NPO 法人 日越ともいき支援会

【かめのり大賞 人材育成部門】

特定非営利活動法人 幼い難民を考える会

【かめのり特別賞】

公益社団法人 シャンティ国際ボランティア会

特定非営利活動法人 シャンティ山口

## 活動報告書

1. かめのり賞受賞回： 第14回かめのり大賞一草の根部門

2. NPO法人日越ともいき支援会

3. 活動目的：

コロナ禍の困窮外国人生活支援事業

在留外国人の増加とそれに伴う地域社会との共生が求められている昨今において、意欲あるベトナム人の保護、援助、教育等により、日本社会への貢献と在留外国人との共生を通じて、安全で住みやすい港区地域社会の維持、向上に貢献する。また、現下においてはコロナ禍による生活困窮者への支援も緊急的に実施する。これまで実施してきた在留外国人への各種支援活動(生活保護、日本語教育、就職支援等)の強化に加えて、コロナ禍により困窮する在留外国人が増えていることから、彼らへの生活支援にも取り組み、国や地方公共団体への提言も行っていく。

4. 活動奨励金の活用

本年度も昨年に引き続き、コロナ禍の困窮外国人生活支援事業を行いました。大きく分けて、・食料支援・就労継続・移行支援・困窮外国人の保護・法律支援・医療支援です。奨励金の活用方法といたしましては、困窮外国人保護をしている日々の食糧費・生活費と、日本語教室・医療費に使わせていただきました。

就労資格を取得するまでの間は、働くことができないため、住居の確保、生活費、食糧に提供、日本語習得支援が必要なため、住居費用、一日3食、日本語の先生の人件費また教材等に活かしました。

5. かめのり賞受賞後の事業活動の内容・功績について

受賞後に特に力を入れている事業内容は、法律支援と医療支援です。

### 法律支援

→コロナ禍、事件に巻き込まれた技能実習生、留学生が激増しました。

### 医療支援

→コロナに感染した若者や、または、短期滞在で保険証を持っていない若者達からのSOSが急増。

→コロナワクチン支援

港区と連携して、コロナのワクチンの接種協力をしました。夏から約 127 名のベトナムの若者達のワクチン支援を行いました。

→妊婦・出産・育児支援

帰国困難な妊婦さんの支援は、今年は 16 名行いました。

- ・帰国便手配— 5 名
- ・保護して出産支援— 4 名
- ・遠隔支援— 7 名

特に妊婦さんについては、昨年技能実習生が出産後の赤ちゃんを死体遺棄で裁判になっていた事件が起こっているため、日本側で妊婦さんをサポートできるシステム作りが必須である。そのサポートシステムを作る事業を立ち上げる。

#### 5. 今後計画している事業

今年度行っている事業は、来年度も継続的に行う予定であります。また、新たに計画をしている事業は、困窮外国人を救済するプラットフォームを作る事業を立ち上げております。

国内の企業と連携して、困窮外国人を見捨てない国づくり（サポートシステム）を作る事業を展開していこうと考えております。

#### サポート内容

- ・企業と連携→困窮外国人のための保護施設（シェルター）
- ・日本語学校と連携→困窮外国人のための日本語教室
- ・監理団体・派遣会社・登録支援機関と連携→就労継続移行支援
- ・弁護士・病院との連携→法律・医療支援
- ・SOS 救済システム→困窮外国人相談窓口を開設

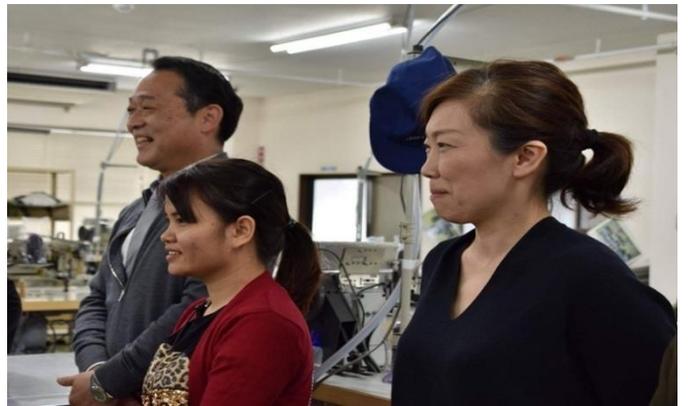


#### ←食料支援

新型コロナの影響で生活に困っている在日ベトナム人達への食糧支援を行っていました。段ボール箱に米屋ラーメン、調味料などを詰め、日本各地に発送しています。

#### 生活支援・就職支援→

新型コロナの影響で帰国困難な元技能実習生や元留学生を中心に保護し、お寺で保護をしています。その中には、帰国よりも就職、再就職を希望する人も多数います。そのため、食料を提供する以外に、特定技能外国人になるために必要な日本語能力試験（JLPT）や技能試験の勉強を指導しています。



#### ←医療支援

短期滞在の健康保険証のないベトナムの若者の支援

#### 法律支援→

犯罪に巻き込まれた技能実習生たちの私選弁護士、接見通訳、生活支援など行なっています。



## 活動報告書

1. **かめのり賞受賞回**：第 14 回かめのり大賞－人材育成部門

2. **団体名**：特定非営利活動法人幼い難民を考える会

3. **活動目的**：特定非営利活動法人幼い難民を考える会は戦乱や飢餓、貧困、災害などいかなる環境においても子どもたちが健全に成長し、その保護者たちが人間らしい生活環境で経済的に自立を支援するという会の目的に沿って保育者の育成、保育センターの運営、収入向上のための技術研修、幼児教育の普及などの活動を実践してきた。カンボジア国内では、子どもたちが安心して暮らせる環境づくりと女性の自立を支援する活動に取り組んでいる。

### 4. 活動奨励金の活用方法

(1) コロナ禍における「村の幼稚園」家庭での活動

会は、2011 年から一人でも多くの幼い子どもたちが、就学前教育にアクセスできるよう 3 年間の運営支援を行っている。4 年目からは地域の行政、運営委員会が幼稚園の運営を継続する自立支援だ。コロナ禍においても活動をやめることなく家庭で保護者と一緒に行える活動を実施することができている。活動奨励金をこの家庭で行う活動とその教材作りの支援活動に使わせていただいた。具体的には保育者の研修、教材資材費、活動を指導する州や郡の幼稚園担当者の交通費・手当、職員の食事手当、事業担当人件費。

(2) 新規開設「村の幼稚園」の保育者の事前研修

村の幼稚園では、地域から推薦される女性が基礎的な保育の知識と技術を学ぶため、幼稚園開園までに研修を行っている。2021 年度は開設する 3 ヶ所の保育者に行う研修の費用に使わせていただいた。研修資材費、参加者交通費・手当て、トレーナー人件費

### 5. かめのり賞表彰後の事業活動の内容・功績

(1) コロナ禍における家庭での活動

● 6 月に会の保育アドバイザーが「村の幼稚園」のあるコンポンチュナン州・郡の幼児教育担当者と協力して、家庭で学ぶためのカリキュラムや保護者が教えられる教材を企画し、製作した。保育者は、保護者へ説明する方法を研修し、各幼稚園で使うことができた。昨年度実施した文字や数字に親しむための教材の見直しと今年は、3、4、5 歳児のための自然や生活の仕組み、社会勉強などの活動に関する教材。コロナ禍でも活動は、保護者を巻き込んで家庭で続けることができた。

● 多くの地域幼稚園では、予算や保育教材の内容を考える人材不足から長期間休みになってしまい、子どもが学ぶことができなくなっている状況がある。製作されたこれらの教材は「村の幼稚園」だけでなく教材開発・作成を一緒に考えたコンポンチュナン州の地域幼稚園やカンダール州の地域幼稚園、他の NGO でも広く利用できるようになった。

- またこの家庭での親と一緒にいる活動の研修指導は、「村の幼稚園」のある郡の幼稚園担当者。実際に保育者を指導し、親への説明の仕方、活動地での親や子どもへの指導なども実施することができた。この実践と経験を通して郡の担当者は、管轄の郡内の他の幼稚園へもその経験を活用することができ、活動自体の広がり、管轄行政との連携を強めた。
- 家庭での保育活動を通して浮き彫りになった保護者の変化と課題  
保護者が教え方について考え、子どもの教育に対する責任感を持つようにもなった。子どもの学びに対する理解が不十分、子どもたちの成長について十分な知識と理解を持っていない保護者が多い事、心身の健康や言語の発達をはじめ、年齢に応じたサポート方法についてもモニタリングを通して分かった課題である。
- 2021年度に新たに開設する3ヶ所の「村の幼稚園」の保育者が、11月22日からプノンペン事務所において20日間の保育者研修に参加することができている。幼児期の大切さ、子どもの成長「村の幼稚園」の役割、保育者の役割・仕事内容、子どもの活動など具体的に学んでいる。中学や高等学校を卒業して「村の幼稚園」で働こうという地域の人たちは、保育の専門的な勉強をしたことがなく、保育の基本的な知識や仕事への心構えを学ぶ機会が持てることは、大変重要である。保育者としての仕事への熱意と意気込みを高め、参加者同士の連帯感もできている。

## 6. 現在（または今後）計画している事業

- 現在実施している事業の継続・拡充 「村の幼稚園」事業のほか、絵本のクメール語出版・印刷、全国の公立幼稚園、地域幼稚園への保育教材の研修・提供、保育者を目指すひとのための奨学金の支給の事業を2022年度以降も継続し、事業内容を見直しながら、さらに内容を充実させていく。
- 地域での幼稚園の管理運営をより確かなものとするためそれぞれの村の幼稚園の運営委員会メンバーの能力強化研修会を開催する。幼稚園を管轄する州と郡の教育局担当者がトレーナーとして運営委員会の責任や運営方法などについて指導。保育者、当会職員も一緒にそれぞれの幼稚園の課題や具体的な取り組みを検討する。また自立して運営能力の高い他の幼稚園を訪問し、運営方法や成功している取り組みを学ぶ。
- 子どもを育てるうえで、大切なこと、保護者を対象に勉強会を開催する。  
2022年からは保護者を対象に毎月、3年間学習会を開催する。教育省の「子どもに関する72か条」を参考にそれぞれの地域のニーズにそって、病気と予防、衛生環境、子どもの権利、栄養、子どものあそびと成長などの内容で行う。必要な知識や親としての望ましい考え方・行動を伝える。説明をする保育者は事前にトレーニングを受け、幼稚園内での保育にとどまらず、子どもの成長環境を保護者と連携して整える役割を担う
- 会のプノンペン事務所は、カンボジア人スタッフが事業の運営管理に責任をもっている。今後は、カンボジアでも事業資金を集めていけるよう会の体制づくりとスタッフの能力強化に取り組む。実際の資金集めを様々な方法で実践していく。

## コロナ禍における家庭での活動のための教材作り 州や郡の担当者と協力し作製



7日間の教材製作では、州や郡の幼稚園担当者と活発な話し合いと教材作りが行われた。

## 家庭で保護者と一緒の行う活動 モニタリング後、郡の担当者と保育者と打合せ



家庭での活動では、親も参加して子どもの活動を見守り、それぞれの子どもの活動への指導も週ごとに話し合われた。

## 新しく開設する「村の幼稚園」の保育者の事前研修 保育者の教材作りも行われた



## 活動報告書

1. **かめのり賞受賞回** 第 14 回かめのり特別賞

2. **団体名** 公益社団法人シャンティ国際ボランティア会

### 3. 活動目的

紛争、災害、貧困などが原因で学校に通えない子どもたちの学ぶ機会は奪われています。子どもたちがどのような環境下でも学ぶことができるよう、シャンティ国際ボランティア会は教育の機会を届けています。

4. **活動奨励金の活用方法** 下記2つの事業で活用させていただきました。

- ・ミャンマー（ビルマ）難民キャンプにおけるコミュニティ図書館を通じたノンフォーマル教育支援事業
- ・アフガニスタンにおけるモデル学校図書館整備事業

### 5. 各事業のご報告

5-1 **ミャンマー（ビルマ）難民キャンプにおけるコミュニティ図書館を通じたノンフォーマル教育支援事業**

#### 【事業概要】

タイ・ミャンマー国境沿いにある7か所の難民キャンプで、15館のコミュニティ図書館を運営しています。難民キャンプに暮らす人々は、閉塞された空間で自由のない生活を強いられ、情報へのアクセスが限られており、放課後や休み中に過ごす場所がなく、自らの文化とアイデンティティの喪失が危惧されることから、文化や余暇、学校外教育の支援が必要です。そこで、コミュニティ図書館では、図書の貸し出しや図書館員によるおはなし会、レクリエーション、読書推進活動、キャンプ外の情報の提供などを行っています。

#### 【事業活動の内容と現状】

新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いた際には、感染対策を実施しながら図書の貸し出しやレクリエーションなどのサービスを提供しています。また、キャンプがロックダウンした期間も含め、絵本や大人の利用者向けの図書などを全図書館に配架しています。これらの図書を図書館閉館時にも利用できるよう、通常時より貸出期間と冊数を増やしています。通常時は掲示板やパソコンで本国ミャンマーや帰還に関する情報を提供していますが、現在は新型コロナウイルスに関する情報も提供しています。

#### 【今後の事業と展望】

新型コロナウイルスの感染拡大と本国ミャンマーでの政変により、難民キャンプに暮らす人々の今後の見通しが立たない状況になっています。一方、難民キャンプへの支援の長期

化に伴い、国際支援の減少に拍車がかかっており、あらゆるサービスが縮小し、多くの難民が不安を抱えています。このような状況の中で、図書館は難民キャンプに暮らす人々の心の支えになっています。弊会では、難民キャンプがなくなる日まで、コミュニティ図書館を継続し、図書館を通じて知識や情報を提供し続けるための支援を継続していきます。

## 5-2 アフガニスタンにおけるモデル学校図書館整備事業

### 【事業概要】

紛争が40年にわたって長期化し慢性的な人道危機に直面しているアフガニスタンにおいて、子どもたちは厳しい状況に置かれています。アフガニスタン政府は教育制度の再建に精力的に取り組んできていますが、未だ350万の子どもたちが不就学であり、就学率は6割以下となっています。また教育現場においては、主に学校校舎・教育施設の不足、教員の不足、教具や教材の不足の3つの課題があります。この3つの課題の解決の糸口の一つとして、図書や図書館活動を通じた同国の教育の質の向上を目指し、弊会は同国において10年以上にわたって学校における図書館活動を実施してきました。しかし、学校図書室を有する学校は1割にとどまります。そのため、教育省と協同でモデル学校図書館を整備し、モデル学校図書館を中心とした学校図書室の普及を目指しています。

### 【事業活動の内容と現状】

アフガニスタン首都のカブールの大規模女子小学校に1月にモデル学校図書館が完成し、教員への図書館運営に関する研修や、児童への絵本読み聞かせを行いました。

またアフガニスタン東部のナンガハル県の大規模女子小学校へのモデル学校図書館の整備に向け、関係省庁や対象校、地域住民及び建設業者との調整を行い、8月上旬より建設の基礎工事を開始しました。その後、タリバン制圧及び米軍撤退による現地における治安不安及び混乱や銀行が本格再開しないなどの状況を受け、建設工事を一時中断しましたが、10月より工事を再開しました。2022年上期中の竣工を目指し、竣工後は図書棚などの家具の配置や絵本など図書の配架を行い、教員への研修を実施します。

さらに、学校図書館の啓発キャンペーンとして、学校の冬季休みの期間である1月～3月中旬に、カブールにてラジオを通じた絵本読み聞かせを行いました。教育省のラジオ番組を通じて毎日3回（各回放送20分）、全国に放送されました。

### 【今後の事業と展望】

本事業でモデル学校図書館を整備するカブール及びナンガハル県の小学校にはそれぞれ2,000名以上の小学生が在籍しています。また、本校は教員養成などの人材育成を行う学校でもあり、地域内外からの研修や視察依頼も多くあります。アフガニスタンにおいて、活用できるリソースや参考となるモデル校、意見共有の場のニーズは高く、本校にモデル学校図書館を整備することで、学校図書館活動の地域内外への波及効果が見込まれています。来年度はモデル学校図書館周辺の図書室を有する小学校教員への図書館運営研修を実施し、学校図書室に関するサポート体制及びネットワークを構築していく予定です。

## 6. 写真報告

- ・ミャンマー（ビルマ）難民キャンプにおけるコミュニティ図書館を通じたノンフォーマル教育支援事業



絵本を読む子どもたち



図書館青年ボランティアによるパネルシアターを使ったおはなし会

- ・アフガニスタンにおけるモデル学校図書館整備事業



カブール県モデル学校図書館での絵本読み聞かせ



カブール県モデル学校図書館の運営研修のグループワーク



ナンガハル県モデル学校図書館建設  
(土台、基礎工事)

以上

## 活 動 報 告 書

1. かめのり賞授賞回： 第14回かめのり特別賞
2. 団体名： 特定非営利活動法人シャンティ山口
3. 活動目的： この法人は、世界の貧困と抑圧にあえぐ草の根の民衆を支援し、全ての民族と共に学び、共に生きるような地球市民社会の構築に参画し、地域の国際化と地球市民教育を行うことを目的とする。

### 4. 活動奨励金の活用方法

2021年度事業の内、次の事業に活用させていただきこととしている。

- 1) シャンティ学生寮の経費の一部に充当（寮生の副食費・施設の小修繕・山口県立大学とのZoomによるリモート学習交流のための通信機材の一部wi-fiの設置）
- 2) 調査用ドローンの購入に充当（農村開発事業の内ナムカー村の植栽用地の調査及び植栽後の状況把握また、次に予定の森林状況の調査のために使用することにより、これまで人力で記録撮影が困難であった地域の調査日数の短縮と経費削減が得られる。
- 3) 活動報告展の実施に一部充当（「かめのり特別賞」に引き続き「日本水大賞」を受賞により、広く一般に公開するとともにSDGsの理解と促進を念頭に国際協力の実例を公開しました。）

### 5. かめのり賞受賞後の事業活動の内容・功績

従来実施していた大学生による現地フィールドワーク・スタディツアーがコロナ渦でできなくなったため今年度は、山口県立大学の授業の一環で「地域実習」を1年間行う。これらの経費にも充当する。

実習目標：NPO シャンティ山口の協力を得て、過去に書かれたスタディツアーのレポートや写真、映像などを編集する作業を通して、国際協力の意義や目的を理解し、世界に発信する。

学生の企画書

プロジェクト名：2021年度 地域実習「スタディツアーのレポートに学ぶ国際協力」

#### 1) プロジェクトの目的

シャンティ山口のイベント活動のミッションである「共に生きよう、分け隔てなく」を国際協力の輪を広めるために、これまでシャンティ山口に蓄積されている写真動画を用いて、映像およびモザイクアートを作成し、シャンティ山口の活動やモン族の暮らしの様子について、より子供から大人まで多くの人に届けるとともに、既存の講演資料をより共に学べるように改善する。

#### 2) プロジェクトの成果

映像およびモザイクアートが作成され、「写創蔵」「大学」「YCAM」などで展示されたりSNSで配信されたり、言葉だけではなく視覚からも共に学べる講演用資料が作成されることでそれらを見た人が一方的で自己満足になってしまうような国際協力ではなく、シャンティ山口のような現地の人々の伝統文化を尊重し自立を後押しするという国際協力のあるべき姿について知る機会が提供される。

#### ① 現在（または今後）計画している事業

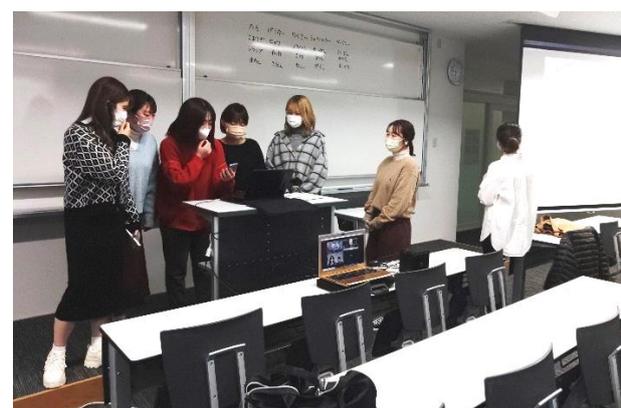
- 1) コロナ渦の経験から終息後もこのような事態がいつ起こっても混乱しないように備えることが好ましい。早速ながら現地の通信網、情報交換設備の整備に取り掛かりたい。また、渡航が途絶えてもプロジェクトの継続に対応できるように更なるスタッフの教育内容を補強したい。

2) 「SDGs」については、言うまでもなく「MDGs」以前から一貫して従来より取り組んでいるところですが、今期、さらに現地の住民と共に12項目を目標にプロジェクトへの取り組みを強化したい。

#### 関連写真



山口県国際交流協会・JICA 山口デスク共同出展の内「SDGs」実践活動事例としてシャンティ山口に出展依頼があり、活動パネルと eco トイレの模型を展示し広報活動を実施した。(令和3年8月21日から8月21日の間)



「かめのり特別賞受賞」記念活動報告展へ山口県立大学生（地域実習の一環として授業参加）  
(令和3年7月17日)

タイ・シャンティ学生寮 寮生との Zoom による交流の様子(令和3年11月30日)

#### 【シャンティ山口ニュースレター】

ニュースレター第147号「第14回かめのり特別賞」受賞

[newsletter147.pdf \(shanti-yamaguchi.com\)](https://shanti-yamaguchi.com/newsletter147.pdf)

ニュースレター第151号 写創蔵ニュースレター149[受賞記念報告展]

[newsletter151.pdf \(shanti-yamaguchi.com\)](https://shanti-yamaguchi.com/newsletter151.pdf)